週刊「考歴民（これみ）」 Ｎｏ44　2022.1.24
交野古文化同好会

考古・歴史・民俗の頭文字を取って考歴民（これみ）と名付けました。

道しるべ③

訪ね歩いて来たけれど、石標のまわりには遺跡らしきものは何もない。それでいいのです。
そこに立ち、当時の人々、暮らし、生活を呼び起こしてみてください

17.古代人陽石崇拝遺跡（森）

古代人がこれを男性性器になぞらえ、特に山の突端部に据えられ（自然に存在のまま）、これを拝み祀った。須弥寺の境内で最も眺めがよく、ここに立つと森・私部の野から天野川を越えて、遥か摂津の山々まで一望できる。

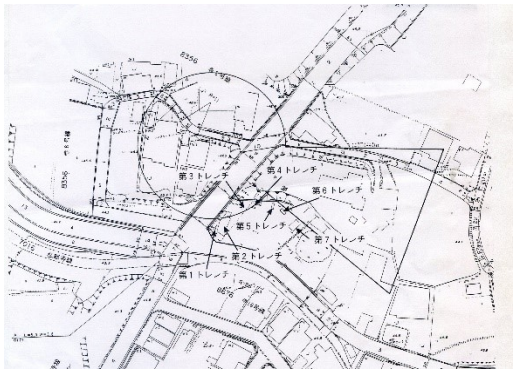
18.南山弥生時代住居遺跡（寺）

昭和３４年秋、大雨があり、この崖面の上部が崩落、その落下した土の中から多くの土器が発見、南山遺跡（標高２１５㍍）の存在が確認された。
隣接して鍋塚古墳がある

鍋塚古墳現地説明会

19.弥生時代住居遺跡（寺）

寺村遺跡の範囲は西は竜王山が形づくる台地の西端、東は正行寺前の三路の西、北は台地北縁、南は南川と市道私部・寺線で限られる範囲。
弥生住居跡に大畑古墳が築かれる。



大畑古墳測量

20 中世熊野街道傍示八王子遺跡（傍示）

かいがけの道を上と氷室の東の山に鉄塔がある。この付近を八王子社跡という。昔の人はこの道を大和・大峯・熊野へと旅をしたのでしょう。

21.星田旭縄文時代住居遺跡（星田）

・遺跡は明治４１年４月に片山長三氏によって発見された。傍示川、特別養護老人ホーム付近一帯。

出土土器は今から４～５０００年前のころ。

22.坊領弥生時代住居遺跡（星田）

昭和３１年サヌカイト製の石器を採集する。藤ヶ尾団地、ＪＲ線路の北側一帯。

藤が尾小学校東側は大型スパーが

23.此附近星田牧址（星田）

星田の中川堤から西側に条里田の形跡をとどめず、ここに星田牧が設けられる。星田の地名のもとは干し田、連年の山の出水と扇状地の耕作不能から、わずかばかりの水田耕作地を捨て、付近一帯を干拓して放牧地としたのであろう。星の田と改められたのは平安時代以降のことと思われる。

24.小松寺遺跡（星田）

廃小松寺は山号は三宅山、元は荒山寺といい、後に小松寺となった。宗旨は真言宗、東寺派。坊舎６７宇、僧衆１２０人、児童３８人という大規模な寺院だった。

廃小松寺と小松山図

画像・地史河内国交野郡星田の里より

25.新宮山八幡址

・星田のほぼ中央にある標高６５㍍の小山を新宮山という。星田の土地が石清水八幡宮の庄園となって、八幡宮の分霊を勧請しお祀りし、あちらが本宮で、こちらを新宮という。

新宮山(八幡宮・旗掛松)

星田名所記より

先人たちが残した、遺跡、建物、崇拝地等々を諸先生方によって発掘、記録、そして現地に標柱を建立（25 本）し、残して下さいました。
私たちは、この標柱を交野の「道しるべ」とし現地に①行って②見て③聞いて、次世代に引き継いで行きたい。

次号 1/31